調 査 報 告 概 要 表

作成日 平成20年 6月　8日

【評価実施概要】

事業所番号	（※評価機関で記入）4673500064
法人名	社会福祉法人　椎原会
事業所名	高齢者グループホーム　金峰やすらぎ館
所在地 （電話番号）	南さつま市金峰町宮崎3992番1 （電　話）0993－58－4075

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27－5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年6月8日

【情報提供票より】（20年　5月　5日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　16年　　5　月　　1　日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　　人
職員数	14　　人	常勤　13 人，非常勤　1 人，常勤換算　2．5 人	

（2）建物概要

建物形態	単独	
建物構造	木造平屋　造り	
	1 階建ての　　1 階　～　　1 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	24,800　　円		その他の経費（月額）	実費
敷　　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	250　　円	昼食	350　　円
	夕食	400　　円	おやつ	0　　円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（　5月　5日現在）

利用者人数		18 名	男性	0 名	女性　18 名
要介護1		3　　名	要介護2	9　　名	
要介護3		5　　名	要介護4	0　　名	
要介護5		0　　名	要支援2	1　　名	
年齢	平均	86.38 歳	最低	75 歳	最高　92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	有馬病院、阿多病院、崎元歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームのある地域は単独高齢者世帯も多く、家族が県外在住など遠方におられる方も多いという地域の特性があり、認知症対応型ディケアセンターを併設し、在宅の認知症高齢者の支援を行うことを視野にいれ事業を行っている。椎原会は、医療法人と社会福祉法人が経営する。身体障害者施設を母体とし、医療分野と福祉分野との連携を図りながら事業を展開している。平成21年度をめどに）新たな事業展開を目指し、準備を進めているところである。ホームからは、金峰山が臨め、周囲は田園が広がり、自然豊かな広々とした環境の中に位置している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、積極的に意見やアイディアを出し合い改善や工夫を行っている。前回、外部評価などで指摘があったことなどについて、各入居者の状況を把握しやすいようにファイルを作成し、業務に活かすなど工夫をしながら業務の見直しを行っている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

まず、管理者が自己評価を行い、その結果を参考に職員間で話し合った。しかし、勤務の関係上全員が話し合いに集まることが困難なため、数回に分けて職員間で話し合い追加修正を行い、その結果をまとめた。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は、これまで3ヶ月に1回開催していたが、4月以降2ヶ月に1回開催するように計画の見直しを行った。運営推進会議では、会議前に参加者と食事を一緒に取りながら意見を述べやすいような雰囲気作りを行っている。しかし、職員会議の内容の報告にとどまっており、参加者の積極的な意見が交わされるまでには至っていない。今後は、会議のテーマや会議の進め方について検討し、積極的な意見交換が行われ、サービスの向上に活かせることを期待したい。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

玄関に意見箱を設置したり、介護計画とともに要望用紙をお送りし、家族からの意見を求め、運営に活かそうと取り組んでいるが、家族からの意見は少ない。昨年から、夏祭りのあと、家族の親睦という名目で職員は入らず家族間のみで話し合いをもつなど、家族間で意見が述べやすいような機会を設けている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域の自治会に加入し奉仕活動などに参加している。また、夏祭りなどは近隣の方々の在宅を訪問して案内状を配布し参加を呼び掛けている。散歩の時など気軽に声を掛け合ったりしているが、近所の方の来所は少なく、気軽に立ち寄れるような関係に至っていない。また、災害時の協力をお願いできるような馴染みの関係は築けていない。日ごろから地域との交流の機会を増やし、緊急時なども気軽に協力が得られるような関係を築くことを期待したい。

調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、開設時に事業所で独自に策定したものである。地域密着型サービスなどの時代の変化に対応するために、現在、見直し作業を行っているところである。	○	地域密着サービスの役割を意識した理念に作り上げることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき、具体的な取り組みについて職員会議や日々の勤務の引き継ぎの時、話し合いを行っている。理念を意識した処遇について、一人一人の入所者の担当者を中心に処遇の共有を行っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し奉仕活動などに参加している。また、夏祭りなどは近隣の方々の在宅を訪問して案内状を配布し参加を呼び掛けている。散歩の時など気軽に声を掛け合ったりしているが、近所の方の来所は少なく、気軽に立ち寄れるような関係に至っていない。また、災害時の協力をお願いできるような馴染みの関係は築けていない。	○	日ごろから地域との交流の機会を増やし、緊急時なども気軽に協力が得られるような関係を築くことを期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、積極的に意見やアイディアを出し合い改善や工夫を行っている。前回、外部評価などで指摘があったことなどについて、各入居者の状況が把握しやすいようにファイルを作成し、業務に活かすなど工夫をしながら業務の見直しを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、これまで3ヶ月に1回開催していたが、4月以降2ヶ月に1回開催するように計画の見直しを行った。運営推進会議では、会議前に参加者と食事を一緒に取りながら意見を述べやすいような雰囲気作りを行っている。しかし、職員会議の内容の報告にとどまっており、会議の内容が運営に反映しているといは言い難い。	○	今後は、会議のテーマや会議の進め方について検討し、積極的な意見交換が行われ、サービスの向上に活かせることを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容･実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在事業所は、同法人内の合併について準備を進めており、合併に伴う諸相談や入所者の要介護認定の区分変更などについて市町村に相談を行いながら事業を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入所者の状況報告を介護計画や請求書の発送とともに毎月最低2回は行っている。月に1回は機関紙とともに手紙を添えて写真をお送りしている。来所される家族には、日々の出来事について声掛けを行っている。県外など遠方に居住されている家族には、家族と入所者と会話の機会を作るなど、家族の時間を大切にしながら電話を活用し報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、介護計画とともに要望用紙をお送りし、家族からの意見を求め、運営に活かそうと取り組んでいるが、家族からの意見は少ない。昨年から、夏祭りのあと、家族の親睦という名目で職員は入らず家族間のみで話し合いをもつなど、家族間で意見が述べやすいような機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職時は、利用者へのダメージに配慮し、個別に説明している。新入職者については、徐々に馴染んでもらえるようにしばらく昼間のみの勤務とし、複数の職員で対応し、入所者が不安を抱かないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに計画し、経験や職種に応じた研修を行っている。内部研修は職員会議の時間を活用し、外部の研修もできるだけ参加できるように配慮している。外部研修に参加した場合、報告書を提出し、職員会議の時に研修報告を行い、研修で学んだことが職員全体に活かせるようにしている。年度末には、年間の研修参加の実績についてまとめている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区認知症グループホーム協議会では総会や講演会が3ヶ月に1回程行われており、管理者と職員が参加している。地域のグループホーム間では、入所者の介護度に応じた対応の仕方など、日々電話などにより相談を行っている。また、職員確保の問題など、お互いに協力しながら情報提供など連携を図っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所に関する相談では、施設の説明を行った後、在宅や病院などを訪問し入所希望者の状況を確認に伺う。入所予定者の入所条件に合致しているか検討を行う。入所希望者に説明を行い希望を確認し、入所希望者とご家族に施設の見学をしてもらい入所の意思を確認し、試用期間後入所を決定するようにしている。家庭的な環境を重視し、居室のタンスなどは自宅で使用していたものを持ち込んでもらうようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の中で分担し各自が役割を持って生活が送れるように支援をしている。調理方法など入所者に教えてもらうこともある。また、以前農業をされていた方もおられ、ホームの敷地内に畑があり、野菜づくりなど教えてもらいながら行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者の状況についてファイルを作成し、情報を共有しながら個別の支援に役立てている。入所者によっては、「コーヒーを飲みたい」「お茶を一人で飲みたい」という希望もあり、自分の部屋でお茶がいつでも飲めるようにポットや茶器を置くなど個別な対応を行っている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族の希望を反映し支援ができるように、担当者と計画作成者と話し合いながら作成を行っている。介護計画を作成後、ご家族に計画をお送りし、確認と同意が得られたことを確認し計画に基づく支援を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回は、職員会議で意見交換し、計画の評価や見直しを行っている。新たな気づきや支援の変更については、日々の記録に残し、分かりやすいように個別の図を用いるなど工夫をしている。日々の記録に残したものは、定期的に集約しまとめなおしファイルに綴じ計画の見直しと支援に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	眼科受診や薬を病院に取りに行くなどの支援を行っている。また、身体の状況によっては、夜間同行し病院受診の支援を行うなど、臨機応変に柔軟な対応を行っている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から月に2回訪問往診があり、訪問看護師も週に3回訪問し支援を行っている。医師や訪問看護師などと連絡簿を活用し、医師の指示に従い対応を行っている。また、訪問時状況を報告したり相談するなど密接に連携を図り利用者に応じた支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての重度化や終末期に向けた方針について、入所時に契約書に基づき説明を行い同意のもとで入所をお願いしている。また、入所者の状況に応じて繰り返し説明し、身体状況が低下した場合、医師に相談しながら、医療機関への入院などの紹介を行っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は居室に入室時は必ずドアをノックし入室している。入浴介助や排泄介助などプライバシーに配慮しながら生活支援を行っている。 個別ファイルなど、入所者の状況の書かれている書類は扉のある棚に収納し、個人情報が関係者以外に漏れないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日程や1週間の予定など個別に支援を行っている。具体例として、各々の希望により就寝時間もまちまちであり、ホールでお茶を飲みゆっくり過ごしたい人やテレビを見たい人など決まった時間にとらわれず希望に応じた生活を支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて、もちつきやそば打ちなど入所者とともに作り、食事が楽しめるように工夫をしている。また、外食の機会を設けたり、手作りのお弁当を持参し一日遠足をしたりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回行い、各入所者のペースに合わせゆっくり入浴が楽しめるようにしている。入浴の順番は、入所者の公平さを図るために、職員が順番を決め交替で入浴を行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所者の中には以前魚屋をされていた方もおられ、鮮度の見分けかたなどを教えて頂くなど、これまでの生活歴を活かした支援を行っている。入所者の中には、日中もベッドに休みたいと思っている方も少なくないが、日中の生活リズムを維持するために、午後の1時から2時までを昼寝の時間と決め、それ以外は、できるだけ起きて活動ができるように散歩をしたりするなど生活にメリハリを持たせるように支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や買い物に出かけたりしている。車いすを利用されている人もリフト付きの車でドライブができるように支援を行っている。年に1回は、入所者全員が参加し、バスで一日遠足に出かけている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、センサーを用い、玄関の出入りがある時はアラームが鳴るようにしてある。また、職員は常に入所者の行動や音などに敏感に行動し、鍵をかけなくても安全に生活が継続できるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備え、玄関の所に、非常用の水、食糧、懐中電灯、手袋、ロープなどを袋に入れ救急箱とともに準備している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事の摂取状況や飲水の量のチェックを行い、個別のファイルの熱型表に記録し、往診時、医師に報告を行っている。献立表は、定期的に協力医療機関の栄養士に見てもらっている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は日当たりも良く、各部屋に室温計を設置し、室温を調整している。部屋によっては、カーテンを2重にするなど部屋に応じた対応を行っている。ホールには季節に応じた花が飾られ、カレンダーは、季節に応じて職員が工夫し毎月手作りのものが飾らてている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ベッドと照明器具のみが設置され、棚やいすなど使い慣れた好みのものを、各自の希望に沿って家族に準備してもらっている。入所者によっては、家族の写真を飾ったり、仏壇を置いたりされている。また、それぞれの入所者の信仰を大切にし、お彼岸は近隣のお坊さんに来ていただき、お経を読んでもらったり、法話をしてもらっている。		